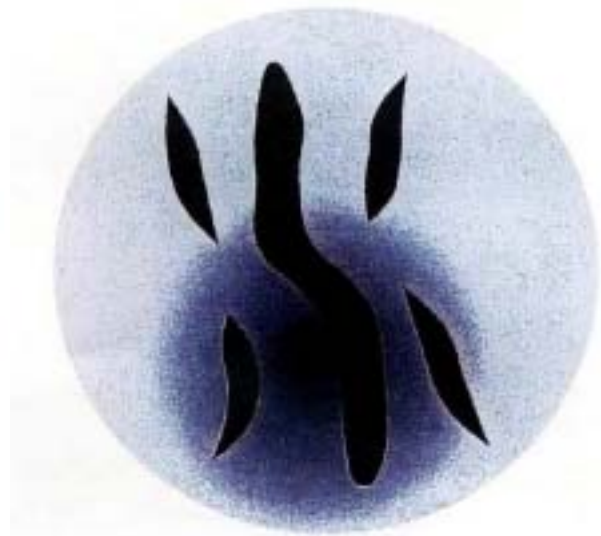


第1工学系 同窓会報

第2号(H11.1)



この3つのイラストは「火」、「手」、「水」の象形文字をもとに、エネルギー変換工学、機器設計学、熱・流体工学をイメージしています。

豊橋技術科学大学 第1工学系 同窓会

創刊号と同じパターンですが、年頭に当り、会長より一言ご挨拶申し上げます。

同窓会報第 2 号の発行に寄せて

会長 今泉 敏幸

新年明けましておめでとうございます。昨年はリストラや倒産のニュースが相継ぎ、明るい話題の少ない一年でしたが、今年こそは良い年にと願っております。

さてこの度、同窓会報の第 2 号を無事発行する運びとなりましたこと、うれしく思うと同時に発行にご尽力頂きました方々には、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

この会報は、言うまでもなく、皆様が作り上げ、育てていくものです。できるだけ多くの方々のご意見や動向を掲載したいと思っています。しかし、連絡網が不十分なため、一部の会員の方々のご意見や動向に限定されているのが現状です。今後は、内容充実のため、様々な工夫や連絡網の充実に勤めて行く所存ですので一層のご協力をお願いします。

なお、創刊号で述べましたように、連絡網として E-mail の活用も視野に入れておりますが、アドレス帳の作成にまで至っておりません。E-mail アドレスをお持ちの方は是非アドレスを事務局までご一報下さい。また、皆様方の自発的な投稿も心よりお待ちしております。年に 1 回は必ず発行いたします。年末頃に事務局まで申し出て下されば幸いです。

最後に、皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

出張先のインドネシアから本間先生が寄稿して下さいました。

私見「豊橋技術科学大学の新しい特徴を求めて」

機械システム工学系教授

本間 寛臣

エネルギー工学・機械システム工学課程ならびに専攻の同窓会の皆さん、明けましておめでとうございます。今年も、クリスマスと正月をインドネシアで過ごし、この原稿を書いています。インドネシアと言えば、皆さんご記憶に新しいと思いますが、大竹一友教授が不慮の航空機事故で死去されたところです。思えば、大竹教授は東工大機械物理工学科以来、教育と研究を同じ学科で共に行ってきた先輩でした。豊橋技術科学大学にも開学の翌年昭和 54 年に大竹先生の誘いで、赴任する事になりました。

お互い、新しい大学、新しい学科で、共に学科・大学の発展のために精進してきました。開学当初の目標は高専卒業生を多数 3 年に受け入れ、また工業高校、普通高校の卒業学生を 1 年生に受け入れ、多様な教育経験を持つ学生を創造的で、実践的な技術者に育て上げることでした。そして、これがまた本学の特徴ならびに使命として、世間に認められておりました。勿論、その教育目標は現在も変わっていません。

しかしながら、周りの状況、すなわち他大学が高専卒業生を

積極的に受け入れ始め、現在では本学と長岡技術科学大学の定員より他大学が受け入れる定員の方が遥かに多くなっています。すなわち、当初文部省が本学に与えた「専ら高専卒業生を受け入れる大学」と言う使命はすでに終わったと同時に、それに基づく本学の特徴も消失したと考えた方が良いでしょう。ただし、実務訓練を核とした実践的技術者の育成という教育目標は依然存在しています。私は一教官として、同窓生諸君が現在、実践的技術者として活躍している事を盲信し、教育に従事しています。

さて、前述したように本学の特徴の一つは消失したと考えた方がよい事は分かっていたと思いますが、それでは本学の特徴を新たに創り出すためにはどうすれば良いか？ このまま世間に訴える特徴を持たずにいたならば、本学の存在は危うくなります。文部省は戦後の第一次ベビーブームならびに第二次ベビーブームの学生を大学に吸収するために、大学・学部・学科を新設してきました。しかし、少子化時代に生まれた子供たちが大学に入学してくる時代になった昨今、大学の過剰現象が顕在化しました。これは、私学に深刻な存続の危機を与えましたが、国立大学と言えども安閑としてしていられないのが現状です。自民党が打ち出している大学の独立法人化は存在感のない国立大学をたちまち消滅させるでしょう。

このような状況下で、本学は何を特徴とする事が出来るのか、生き残りをかけて新たな特徴を創出していく必要があります。さて、本学は開学以来国際交流に力を入れてきました。現在、本学は 24 の海外大学と交流協定を結んでいます。また、本学の留学生受け入れは、平成 10 年 11 月現在、151 名となっており、大学の規模、たとえば学生定員に対する留学生の比率は 7 % 強であり、全国大学平均 1.6 % を圧倒しています。また、国際協力事業団等、公的機関の海外協力プロジェクトに積極的に参加しており、今年度から、大学独自のインドネシアランポン大学新学科設置支援プロジェクトを展開しています。このような活動は海外ならびに国内の関係機関から高い評価を得ております。

昨年、大竹教授が逝去されたのも、インドネシア高等教育開発支援プロジェクト（インドネシアと日本政府の共同プロジェクト）の長期専門化として赴任している間の公務中の殉職でした。このプロジェクトはインドネシアのスマトラ島とカリマンタン島にある 11 の地方大学工学部教育の質向上を目的としたものです。本学は積極的にこのプロジェクトに参加し、多数の先生方を短期専門家ならびに長期専門家として派遣しております。大竹先生は、国際協力事業に参画する事が本学にとって非常に重要事業であることを認識され、進んでプロジェクトに参加されました。残された者として、先生の遺志を継ぎ、本学が国際協力・交流を積極的に進め、これが必然的に本学の特徴となっていくのもっとも自然で、Feasible な方策であろうと、私は考えています。

この考えをさらに発展させ、本学の教育を創造的で実践的な技術者を育成するのみでなく、日本人学生はもとより、海外から学生を積極的に受け入れ、国際的環境の中で海外に通用する

プロフェッショナルエンジニアを育成する方向に拡大していく必要があります。幸い、本学は国際協力活動において、ごく一部の有名大学を除けば、他大学工学部より各段の知名度と実績を誇っています。同窓生諸君も、多くの方が海外勤務を経験されていることと思います。今後、日本企業がますます海外事業の展開を推進するなかで、諸君も海外で働く機会が益々増加するものと思います。そのような経験から、是非、上記の私見に対し、忌憚のないご意見・コメントを頂けたら幸いです。私の E-mail アドレスは homma@mech.tut.ac.jp です。

豊橋技科大の国際交流状況についてはホームページ (<http://www.tut.ac.jp>) に詳しく記載されています。

以下は同窓生からの寄稿文です。1 期生から 13 期生までの 9 名の方が寄稿して下さいました。原稿を頂いた順番に掲載してあります。

アメリカの政治の中心ワシントンから

1989 年エネルギー工学課程卒業 (本間研究室)

波田 英輝

不思議なもので、技科大を卒業してからもう 10 年が経とうとしているのに、小松原街道をオートバイで通っていたのがついこの間の様な気がします。あのころは、パソコンでレポートを書くという、今では当たり前のことをすごいことのように思っていました。10 年後の今、この原稿をインターネットを使って雲雀ヶ丘まで送信しようとしていることを考えると、技術の進化の速さに驚かされます。

私は 87 年に鈴鹿高専からエネルギー工学課程の 3 年次に編入し、4 年次を本間研で過ごした後、他のみんなより一足先に就職して、それ以来ずっと三菱自動車工業にお世話になっています。三菱自工ではモーターショーに出展する車の企画開発を行ったりした後、ドライバーの目の動きに関する共同研究を行うために 92 年から 2 年間ミシガン大学交通研究所に派遣されました。この 2 年間は私にとって初めての海外生活で、しかも、まわりに全く日本人がいなくて「言葉が通じなくてつらい」ということさえ英語で言わなくては行けないという厳しい環境でしたが、どうにか現地で「嫁さんゲット」できるぐらいのレベルまで語学力が上達しました。「若いときの苦労は買ってでもしろ」というのは先人の言葉ですが、そのうち昔の苦労が実になって帰ってくるのを楽しみにしています。今のところは残念ながらまだ「若いときの苦労を買っている」段階で、昼間会社で同僚と英語でやりとりして家に帰ったら妻とまた英語という生活をしています。頼みの綱は残りの家族メンバーの黒猫ですが、猫は英語はしゃべらない代わりに日本語も話しません。日本語にふれるのは毎朝インターネットで日本の新聞を読むわずか 10 分ぐらいではないでしょうか？

現在は (財) 自動車走行電子技術協会に出向して、そこからさらにワシントン DC にある ITS of America という団体に派遣されています。ITS (Intelligent Transportation System) という

言葉をご存じの方もお見えになると思いますが、これは、車や道路などの中で効率的な情報通信を行い、渋滞や事故などの交通問題の解消を図るシステムのことで、ナビゲーションや高速道路の自動料金支払いシステムなどがよく知られているのではないかと思います。ITS America はこの ITS についての民間や学界からの意見を連邦運輸省に進言するための機関で、そこで私は International Fellow として日本とアメリカの情報の橋渡しを行っています。この関連の問題についてご質問がございましたらお気軽に電子メール等でおたずね下さい (hhada@aol.com : 日本語 OK)。

私が働いているワシントン DC はご存じの通りアメリカの首都ですが、同じ首都でも、政治・産業・学術が混ざりあった東京とは違い、DC は政治だけの町で日本の霞ヶ関の官庁街をそのまま大きくしたような感じです。この町が生み出すのは自動車や冷蔵庫といった製品ではなく、法律や政策などの言葉ですので、話の得意なアメリカ人の中でも一流の話し手がそろっています。でも、いくら話し合っても手を動かさない限り物事は進まないというのはどこも同じで、ワシントンで行われる仕事はすべて遅れがちで、一般的アメリカ人からは「ワシントンの環状高速道路の内側はアメリカではない」と一種軽蔑のまなざしで見られているところもあります。

しかし、積極的に発言するということのプラス面を強く感じさせられるのもこの町です。日本だと会議で黙っている人は「思慮深い人」と見られますが、こちらでは会議で発言しないと「意見のない、価値のない人間」と見なされて次の機会はまだ回ってきません。大学の授業でも先生の話に黙って聞くのではなく、予習してきたことをベースに積極的に質問するというのがアメリカ流ですので授業時間の半分以上は議論に費やされています。従って、実際のビジネスで最も重要な、与えられた情報をうまく利用して自分に有利なように物事を持っていくというテクニックを大学で体得できることとなります。確かに日本とアメリカではベースとなる文化が大きく異なりますが、インターネットなどを通じて業務の国際化がますます進んでいく現在の状況では、このような交渉能力というのがさらに重要になっていくのではないかと思います。

出向に行ったり、ビザを申請したりで、自分の経歴を書く機会が普通の人より多いのですが、その度に中学 高専 技科大という自分の学歴のユニークさを改めて実感します。世の中には多くの大学がありますが、高専出身者を専門に受け入れるユニークな大学は広い世界でも豊橋と長岡の 2 つしかありませんので、今後も豊橋技科大の皆様にはこのユニークさをさらに発展していくような努力を期待します。

時は流れて・も・・・

6期生 大阪府立高専（小沼研究室）

難波 邦彦

技科大を修了して、まさか予想もしなかった母校の高専に戻り、早くも12年が過ぎようとしております。大学時代は関係者の方々に色々とお世話になったにも関わらず、愛校精神が全く欠けているせいか自分が技科大の卒業生であることを思い出すのは、学会などで当時の指導教授にお会いして緊張した時ぐらいで、技科大を「卒業生」というよりは、「高専関係者」として意識する方が多いように思います。こんな私も平成10年度の4月から4年担任を仰せつかり、予定では来年度に5年担任として学生の就職・進学のお世話をする予定になっております。高専生の編入学は我々の頃とは大きく様変わりし、全国の多くの国立・私立大学の様々な学部が門戸を開き、また、受験生の方も高専生だけではなく、短大生、他大学の2年生というように、器が大きくなった分だけ、編入希望者も多くなっています。そして、就職においても、知名度の高い一流企業志向が強いように、編入先についても工業系大学よりは総合大学志向が強いようにも感じられ、技術屋さん臭いことを逆に嫌がる学生も多く、とても残念に思います。

パブルの悪影響だと思いますが、世間全体が小綺麗で豪華でお金がかかったスマートなものに高い評価を与えるために、本当に役に立つ地道で泥臭い仕事が軽んじられるケツタイな世の中になっています。研究の面でも、我々の学生時代のように研究室にこもって、テーマにドブプリはまって、見栄えは悪くても何でも自分達の手で作って、ドンドンめり込んでやり遂げるというような雰囲気、将来を期待される若者から感じられなくなったような気がします。そんな世の中で、高専だけは、カッコイイ偉いエリートではなく、色々な面でマニアックでオモロイ、個性的な奴を育てなければならぬといつも思っています。そして、その高専生を多く受け入れる技科大だけは、そんな奴をよりオモロイ奴に成長させることが可能であると私は自分勝手に大きく期待しています。

近況報告

13期生 東京都立高専（竹園研究室）

稲村 栄次郎

第二の故郷となった豊橋を後にし、母校ではありませんが7年ぶりに高専に戻ってきて、早1年半が過ぎました。その間、自分が高専生であったときと現在の状況を比較する機会が多く、そのことが役に立つ場合もあれば、逆にそのギャップに戸惑う場合も少なくありませんでした。そのギャップには、学生と先生という立場の違いによるもの、世代的な考え方の違いによるものがありました。最近になってやっと「先生」と呼ばれることに慣れ、言うことを聞かない学生を叱ることができるようになりました。逆に、学生の立場に立って物事を判断できなくなりつつもあります。そのような状況のなかで、徐々に顔と名前が一致

する学生が増えて学生と話をすることが多くなり、高専という環境に自分が浸透していくのが感じられます。

担当している授業は、設計製図、工作実習、そして工学実験です。それぞれの科目は高専時代に学生としてすでに体験済みですが、立場が教師となると状況がかなり変わります。設計製図は私にとって不得意な科目の一つでしたので、最初のうちは教科書に記載されていないような細かいことや状況によって判断すべきことなどを学生から質問されると、即答できず悔しい思いをしました。また、学生が授業に対し関心があるかないかは、その学生の態度からすぐに分かり、学生を授業に関心向けさせられない歯がゆさを感じます。しかしながら、学生が教えたことを理解できたり、授業が面白かったと言ってくれれば、その苦労も報われ、うれしく思います。

クラブ顧問として、卓球部と省エネカー研究会を担当しています。私は卓球の経験はほとんどなく、温泉卓球程度で楽しむことしかできません。そのため技術的な指導はできませんが、それでも大会に参加してがんばっている学生を応援すると、わずかな体育会系の血が騒くのが分かります。また、省エネカー研究会では、エコランカー部門とソーラー部門に分かれており、それぞれ専属の技術集団がいます。彼らは、旋盤やフライス盤、アーク溶接まで自由自在に使うことができます。そして、ほとんどの部品を自分たちの手で作ることができます。工作実習の苦手な私は、そのような学生をいつも羨望の眼差しで覗き込んでいるだけです。彼らを見ていると、本当の機械工学科の学生はこうあるべきだとつくづく思います。

このように、新しく始まった教員としての役割に責任と喜びを感じているところです。これまでは、自分のために勉学に励んできましたが、ここで、一部でも還元し学生のために役立つことができればと思っています。かつて、私が高専生のときに先生方にさせていただいたように。

「安全率」

5期生 中尾 賢治

三洋電機に入社してはや13年目を迎えてしまいました。この間に、仕事の面では、（権威はありませんが、）論文を二つほど書いて、かすかな軌跡を残したと思っています。また、個人的には念願のマイホームを建てました、という平凡なサラリーマンです（自分ではそう思っていないが、）実は、このマイホームで一騒動ありましたので、是非、皆様のご意見を伺いたいです。私は機械科出身ですし、父親も建築、機械に詳しいので、家を建てるのなら、強度、構造を優先するという考えを持っています。今回のマイホームの建築にあたっては、特にどの業者ということもなかったのですが、親戚の強い勧めもあり、数寄屋建築を得意とする地元工務店と契約しました。そして、建築基準以上に強度を増すため、100万円を余分に払い、補強工事を行いました。ところが、柱と梁を接続する金具は造作に邪魔になるため、こちらが見ていないうちにいくつか除去され

てしまいました。もちろん、その金具が無いと住宅公庫の検査をパスできません。除去したのは検査後です。工務店に苦情を言っても何もせず、壁を貼ってしまったので、素人には何もわかりません。工務店を紹介した親戚の言い分は、「私の紹介で立派な家を造ってくれたのだから文句を言ってもいけない。接続金具がいくつ使われているか知らないけど、安全率をみて設計されているのだから、少しぐらい除去しても安全率が下がるだけだ。強い地震が来たら、そんなのあっても無くても壊れる。」その親戚の者は経済学部出身で、議論をしていても最後は、価値観の違いで片付けられてしまいました。具体的な根拠無く安全率を削るのは、技術屋にとっては背信行為と思うのが、皆様のご意見を求めます。nakao@gf.hm.rd.sanyo.co.jp

近況報告

小杉 淳

(平成3年度修了)

みなさんこんにちは。平成3年度修了の小杉と申します。在学中は蒔田研にて乱流拡散の風洞実験なんかをやりました。大学院終了後は1年ほど研究生として“居残り”、そのあと豊橋市内の某化学メーカーへ就職、そこで3年ほど“給料泥棒”をいたしまして、2年前に母校でもある北海道の釧路高専機械工学科へと“強制送還？”され現在に至っております。某化学メーカーでは、いちおう機械工学それも流体をやってきたというところを買われてか？、化学の専門家しかいない研究室に押し込まれ、カニやエビの殻から造られるという得体の知れぬ液体からフィルムや医療用カプセルを造る製造技術の研究などをやっておりました。それにしても自分の知らない化学の世界って新鮮に見えましたねえ。工学といえども分野が変わればいろいろなもの見方をしているんだなぁと、認識を新たにできました。そんなおり、生まれ育った北の地より“おいしい？話がある”と持ち掛けられ、気づいてみればうまくだまされ？厳寒の地へ…。

高専は変わってしまった…これが赴任しての第一印象でしょうか。私が卒業してまだ8年足らず、いや8年も経過したというべきでしょう。学生の雰囲気はまるで違うのです。いわゆる“高専君”という人間はあまり見当たらず、“軟弱化？”が進んでいるように見受けられました。確かに週休2日になり、授業時間も大幅削減と学生にとっては嬉しい環境なのでしょうが、当然それだけ習得できるものも少なく一昔前のような実践型技術者としてすぐに社会で期待されることも少なくなってきたような感じがします。そんな寂しさもある中、学生の能力を最大限に引出して将来の可能性を広げることは容易ではありませんが、とてもやりがいのある仕事だと最近感じるようになりました。企業の原点もいかに人間を育て社会の役に立つ商品を世に送り出すかということにありますから同じようなもんですかね。

とまあ、偉そうなことを書き下ろして参りましたが、教師と

しては“モグリ”みたいなものですので、教え方なんかも板についておらず授業では学生の反応を見ながら、時にはハツタリ？を掛けて何とかこなしているというのが現状でしょうか。まだまだ学生から教わるのがたくさんあります。主役はあくまで学生ですから、決して教える側中心に立った考え方はしないように、常に若い学生相手にいろいろな話をしてフィードバックを自分に掛けられるように心がけています。

今年は10か月間内地研究員としてまた豊技大へ戻ることが決まりました。学生時代の研究を続ける予定で、厳寒の地から灼熱の地へという感じですが頑張りマース。

最後になりましたが、今後一層の卒業生皆様のご活躍をお祈りしております。

近況報告

谷 尚善

(平成9年度修了)

平成9年度修了の谷 尚善です。卒業して、まだ一年にも満たないのですが、技科大に通っていたのが何故か数年前の事のように思えます。それだけ周りの環境が大きく変わり、そして新しい経験をしてきたという証拠でしょうか。今から思うと、学生時代は自由だったなとしみじみ思い返されます。

さて、現在私は本田技術研究所にて4輪内装の設計に携わっています。仕事が決まると否応無く生活の場も変わる訳でありまして、住んでいるところは栃木県宇都宮市近郊です。滋賀県出身の私にとって、宇都宮市は全く知らない土地であったわけですが、住めば都とは良く言ったもので、それなりにこちらの生活を楽しんでいます。

そこで、宇都宮を楽しむ方法；

その1、餃子を食べる。(何でも、宇都宮は餃子の消費量日本一を誇るらしく、おいしい餃子を食べる事ができます。しかし、餃子の専門店に行行列ができるのを見た時にはびっくりしました。)

その2、温泉に入る。(仕事の疲れがとれます。)

その3、レースを見る。(ツインリンクもてぎまで車で約1時間半、CARTや世界GPも開催されます。)

その4、スキーに行く。

スキー場が結構近いので、今年の冬はスキーをがんばろうかなと考えています。

現在、下記住所に住んでいます。とりあえず3年間はここに住んでいる予定なので、是非ご連絡下さい。

郵便番号 329-1231

栃木県塩谷郡高根沢町宝石台 5-11 宝積寺寮 225 号室

谷 尚善

近況報告

一期生 松下電器産業(株) 電化住設研究所
富田 英夫

いよいよ世紀末。人生を80年と考えると、この世紀末は私の人生の折り返し(男の厄年)に当たります。社員稼業と「毎日が日曜日」が同じ期間になり、第2の人生を盛り上げるために、社外に目を向け、準備を始めなければならない今日このごろです。

私の所属する電化住設研究所は最も松下らしい家電と目立たない住宅設備分野を担当するディビジョン研究所で「今日を支え、明日を創る」をスローガンに、業界デファクトスタンダード作りと知財権の確立を使命としています。いわゆる商品開発センター的な位置付けです。私は主に暖房・給湯分野を担当する環境エネルギー研究室に所属し松下ではめずらしいガス・石油の燃焼装置や熱交換器を研究開発し、事業部での量産まで人間関係だけで乗り切っています。(上からの理不尽な要求と下からのわがままを賢くこなすことも仕事かな?)この不況時には、性能UPしただけの商品ではヒットにならず、例えばコンパクトと新機能付加などのトレードオフ関係を両立した商品がお客様に支持され買って頂けるのです。技術開発のキーポイントは「二律背反」です。燃焼機器開発の三種の神器は「アルミ耐熱テープ」、「アロンセラミック充填材」、「金切りハサミ」で、研究開発は切った貼ったの試行錯誤・暗中模索、すなわち、試作しては実験、評価の繰返しで馬力で業務をこなすことでした。しかし、昨今は諸経費の削減や開発スピードアップのために、シミュレーション・理論解析の実践と特許出願のノルマ達成が強く求められています。

久しぶりに、連続方程式、運動方程式、エネルギー方程式にチャレンジしていますが、微分・積分が思い出せず、使える式や解を探しているのが現状です。...あきらめたくはないのだが。日頃の勉強不足を悔やんでいます。ただ、オーム社 日本機学会編「燃焼の設計 - 理論と実際 -」の家庭用燃焼機器の設計の原稿を書きましたので機会があれば読んでみて下さい。(上司の添削で原文とはかなり変わっています)

業務以外に、家族には大迷惑をかけ、なんとか協力してもらいながら、私は研究所担当の労働組合の書記長をやりました。その際、バブルがはじけ、リストラによる研究所・事業部の組織変更や政治活動を経験させてもらいましたが、労働組合の裏側(会社より古い体質)と政治の一端を垣間見れたことは今では楽しい思い出であり、人生のターニングポイントでもあったと思います。ご褒美・役得は、例えば経営幹部との懇親会の2次会で、社員ではとても行けないクラブなどがありました。...今は知りません!

松下の言い伝えには、「フロン、電磁波、排気ガスに晒されると、女の子が産まれる」がありますが、仕事熱心な私は常に排気ガスを吸っているのでも娘二人です。回りを見て男ばかりで、男の子が産まれると、「仕事を真面目にしていない」と言われます。下の娘は一緒にお風呂に入ってくれますが、上の娘

はなかなか入ってくれません。やはり人生の最後は夫婦なのでしょうか。今、二人でフィットネスクラブに通い、ストレスを発散しています。

”いつまでも若さを忘れず!”

一期生 豊橋市立章南中学校
池崎 勇

「豊橋市立章南中学校」

この勤務先をご覧になり、「何だこれは? この人、どんな人?」と思われたのではないのでしょうか。

私は、技科大の大学院を確かに修了しました。しかし、多くの卒業生とは違う道を歩み始めました。(この件については、当時の技科大の先生方に大変ご迷惑をかけ、しかもお世話になりました。)技科大を修了後、2年間は大学に残していただき、通信教育にて教員免許を取得しました。その後、小学校の教員を7年、そして中学校の教員8年目を迎えております。なぜ小学校の教員に?のご質問もあるかとは思いますが、その点については次の機会に回させてもらいます。

さて、教員生活も15年過ぎようとしている今、それぞれの学校で何学年かの卒業生を送り出してきました。そして、彼らが成人し、成人式に招かれることもあります。実は、今この原稿も、成人式を終え成人者と多くを語り、帰宅後コンピュータに向かって書いています。今回で4回目の成人式になりますが、いずれの成人式のときにもこんな会話が出来ます。

成人者:「先生変わらないね!」

自分:「でも、年をとったよ。」

成人者:「昔のように、バリバリやっていますか?」

自分:「今は落ち着いているんだよ。」

成人者:「あの時は先生恐かったよ。」

自分:「そうか?」

成人者:「でも、エネルギーがあったよね。」

:「あの時の先生って、今思うとよかったよ。」

:「今も、エネルギーたっぷりやってる?」

ここで、いつも思うんです。「やっぱり昔は、エネルギーがあったんだな。」今は、何となく落ち着いてしまって、面白味がないのかも知れないな。」

こんなことを、年齢のせいにはしたくないと思います。年齢を重ねるごとに経験もでき、それなりの責任を任せられることもあります。その年相応の行動を要求されることももちろんです。しかし、やはり若さを忘れてはいけないんだと成人者と話してくるときに感じさせられ、教えられ、そして勇気づけられてきます。

時には、成人者に

「俺たちにやってくれたように、これからもがんがんやってくれよ。」と励まされて帰ってきたこともあります。

これからも

”いつまでも若さを忘れず!”

がんばっていきたいと思っています。

- 近況ご報告 -

3期生 秦 信一

1系同窓会のみなさんお元気ですか？ 1984年3期修了生の秦(はだ)です。同窓会報発行にあたり、私の近況をご報告させていただきたいと思います。

まず、私は1984年修了後、神戸製鋼に入社し現在まで同社に勤めています。神戸製鋼自体は、鉄鋼メーカーというイメージを持たれるかも知れませんが、鉄鋼の比率は約40%であり、そのほかアルミ、銅といった素材部門、機械部門、溶接棒や電子情報事業といった多くの事業を行っている会社です。また、少し前迄はラグビー部が7年連続で日本一になっていましたので、その印象が強い方もいらっしゃるかも知れません。私自身は、入社後海外へセメントプラントを建設する部門に配属になり6年間エンジニアリング業務に携わってきました。入社した前年迄はプラントビジネスはいわゆる花形産業であり、入社時の配属でも人気部署でしたが入社と同時に円高に伴うプラントビジネス不況が訪れ、神戸製鋼自体もその事業を縮小する方向となり、90年からは塗装ロボットのエンジニアリング業務に配転となり現在に至っています。勤務場所は、当初神戸市に居ましたが1992年に何と豊橋市にロボットセンターをつくる事になり、豊橋に移り住んでいます。(今年の4月からは兵庫県の高砂という所に移る事になっています)

こう振り返ってみますと仕事としては入社以来エンジニアリング業務を行っている事になります。ここでエンジニアリングと言っているのは、いわゆる機器そのものを開発、設計するものではなく種々の機器を最適に組み合わせ顧客のニーズにあったシステムを構築していくという業務であり、一面営業的な感覚も求められる事になります。また、受注後は機器を設置しシステムを立ち上げる所までのとりまとめ業務迄を行っていますのでセールスエンジニアから現場監督迄の幅広い仕事が業務範囲となります。少なくとも、学生時代に専門としていた動的破壊力学とは全く別の世界ですが、この業務自体は、いろいろなところへ出かける事が多くまた、多くの人と接触する機会が持てますので結構気に入っています。特に、ここ数年は塗装ロボットビジネスも需要を海外にも求めており、一昨年前迄は韓国へ頻繁に行っていましたし、ここ2年程は景気の良いアメリカに行く機会が多くなっています。実はこの原稿も出張先のアメリカで書いています。場所は、カリフォルニア州のフリーモントとい所で、General Motorとトヨタ自動車とがJoint ventureで作った会社(NUMMI)に塗装ロボットを納入し、その最後のまとめに来ているところです。この場所は今もその制度があるかどうか知りませんが学生時代に豊橋市から一部費用を出してもらって来た事がある所の近くで、その時に共同研究でこちらに来られていた本間先生と一緒にテニスを見に行った事や釣りに出かけた事などがとても懐かしく思い出されます。

この地は、気候はすばらしく年中ゴルフが出来る環境で永住しても良いとも思える所ですが、例の Silicon Valley の近くでありその関係で大金持ちが多く、物価が非常に高くなっています。一説に依る

と、アメリカの東海岸でとれる魚の一番高いものが、日本の築地に行き、その次が New York、そして3番目に高いものがこの地に来るとの事です。ホテル代も高く一泊\$100以下では泊られません。素泊まりで税金を含めると1万5千円から2万円くらいします。少し前までは、アパートを借りていましたが、月\$3,000 でしたし、日本食を食べに行くと普通に食べても数千円から1万円くらいになります。(元々、どこでも日本食は高いのですが。)

また、海外へ来るとやはり人種の違いというより、文化の違いに触れる事が出来、これも良い経験になります。韓国人は韓国人の考え方を持っており、顔は似ているものの全くの別人種ですし、アメリカ人の合理的な考え方や建て前を重視する姿勢など仕事を通して経験する事が出来る事を幸せに思っています。日本人の考え方、良いところ、悪いところが見えてくるのも良い勉強になります。

ところで、我が社を含め企業を取り巻く環境は今大きく変わろうとしています。その中に居るとなかなか気づきにくい面もありますが、Global な競争の時代となりこれまでのやり方が通じなくなっている事は確かだと思います。神戸製鋼も私が入社して以来、時代の流れに合わせた制度変革を続けていますが、トヨタ自動車に見られる持ち株会社の方向へと進んでいます。恐らくこれは、日本中の企業に広がっていくのではないのでしょうか？アメリカ的な会社のあり方に日本人的な特徴を持たせた会社への変革が求められていると思います。そして、会社が変革すると同時に私自身も含め我々も変革していかなければいけません。国際ビジネスの中でやっていける人材が求められると思いますし、どこへ行っても通用する何かを持つ事が必要となると思います。

私よりも随分と若い方も多くいらっしゃると思いますので、敢えて言わせていただければ、英語の能力はMust条件でしょうし、最近の方は、全く問題無いとは思いますがパソコンの活用も不可欠でしょう。それに加えて、何かを持っていないければいけないと思います。私自身の経験から日々の仕事に追われて、何かを継続して行う事の難しさは重々分かっていますが、まだ特に何も無いとおっしゃる方はこの機会に何かを始めていただければと思います。

最後に近況という事で、プライベートな事を二言。

1. 転職になるとは知らずに最近買った自宅の処分を考えています。豊橋の閑静な住宅街にある一戸建てです。どなたか良い物件を探している方はいらっしゃいませんか？
2. 入社以来、ゴルフをやっています。年2~3回くらいコースに出る程度ですから腕の方はご想像いただけたと思いますが、今年3月迄なら豊橋近郊の方、4月以降なら兵庫県近郊の方、お声を掛けていただければと思います。(e-mail : ShinHada@aol.com までご連絡下さい。)

以上とりとめのないことを書かせていただきましたが、今後の皆様のご活躍をお祈り致します。

役員一覧

会長 今泉 敏幸 (1期、Toshiyuki_Imaizumi@chkk.co.jp)
副会長 藤川 武敏 (1期、e0633@mosk.tytlabs.co.jp)
理事 池崎 勇 (1期)
柳田 秀記 (1期、yanada@mech.tut.ac.jp)
秦 信一 (3期、aa16074@notice.kobelco.co.jp)
感本 広文 (11期、minamoto@mech.tut.ac.jp)
関下 信正 (11期、seki@mech.tut.ac.jp)
監査 小西 正則 (1期)

会計報告

第1工学系同窓会の財政状況を以下に示します。収支の明細は省略し、大略のみを記します。

平成11年1月20日現在の資金総額：約230万円

年間収入：約93万円(平成10年実績)

収入は新規入会者数に依存します。

年間支出：約19万円(平成10年実績)

同窓会報の発送費が支出の約8割を占めます。残りは名簿データ修正作業や会報発送作業時のアルバイト代等です。

事務局よりのお願い

会長が冒頭の挨拶でも申しておりますように、会員への連絡網を強化したいと考えております。**電子メールアドレスをお持ちの方は、下記アドレスの何れかにお知らせ頂きますようお願い申し上げます。**

また、**住所や勤務先等の変更の折にも必ずご一報頂くようお願い致します。**電子メールを利用しておられない方は、下記住所に郵便でお知らせ下さい。下記の新郵便番号は技科大専用の番号ですので、郵便は大学名のみで届きます。

1系同窓会事務局メールアドレス

yanada@mech.tut.ac.jp

minamoto@mech.tut.ac.jp

seki@mech.tut.ac.jp

郵便用新住所

〒441-8580

豊橋技術科学大学 第1工学系同窓会 事務局

役員募集

上の役員一覧をご覧ください。3期のひとりを除けば、役員が1期と11期に偏っており、同窓会の活動(主に会報の発行)を行う上でやや支障が生じております。そこで、**2期から10期、また、12期以降の同窓生の方の中から、役員になってもよい、という奇特な方を募集したい**と思います。会報に掲載する原稿依頼が主な仕事です。インターネットの普及により連絡が容易にできますので、どこにお住まいの方でも結構です。事務局までご一報下さい。

編集後記

昨年も豊橋技科大にとっては不運な年でした。あのアジ化ナトリウム盗難事件の経緯は大学事務局のホームページ(<http://www.office.tut.ac.jp/>)内の最新のニュースに掲載されています。新聞等を読まれて、見知らぬ者に毒物の保管場所等を安易に教えるとは何という馬鹿なことを、と思われたかも知れませんが、岡崎や三重など各地で起った毒物混入事件のため、警察や保健所による毒劇物の保管状況検査が本学でも何度か行われたらしく、当該学生は「また検査か」と思ったようです。「馬鹿な」と切り捨てられるのは気の毒な感じがします。

毎年のように、年賀状に「今年も...」、「今年(こそ)は...」と書いたり、書かれたのを受け取ったりしますが、本当に今年こそは豊橋技科大にとって良い年(あるいは悪いことが何もない年)になることを願っております。同窓生の皆様にとりまして良い年となりますことを祈念しております。

最後になりましたが、ご寄稿頂いた本間先生と同窓生の皆様に深く感謝申し上げます。

柳田 秀記 (同窓会事務局担当)